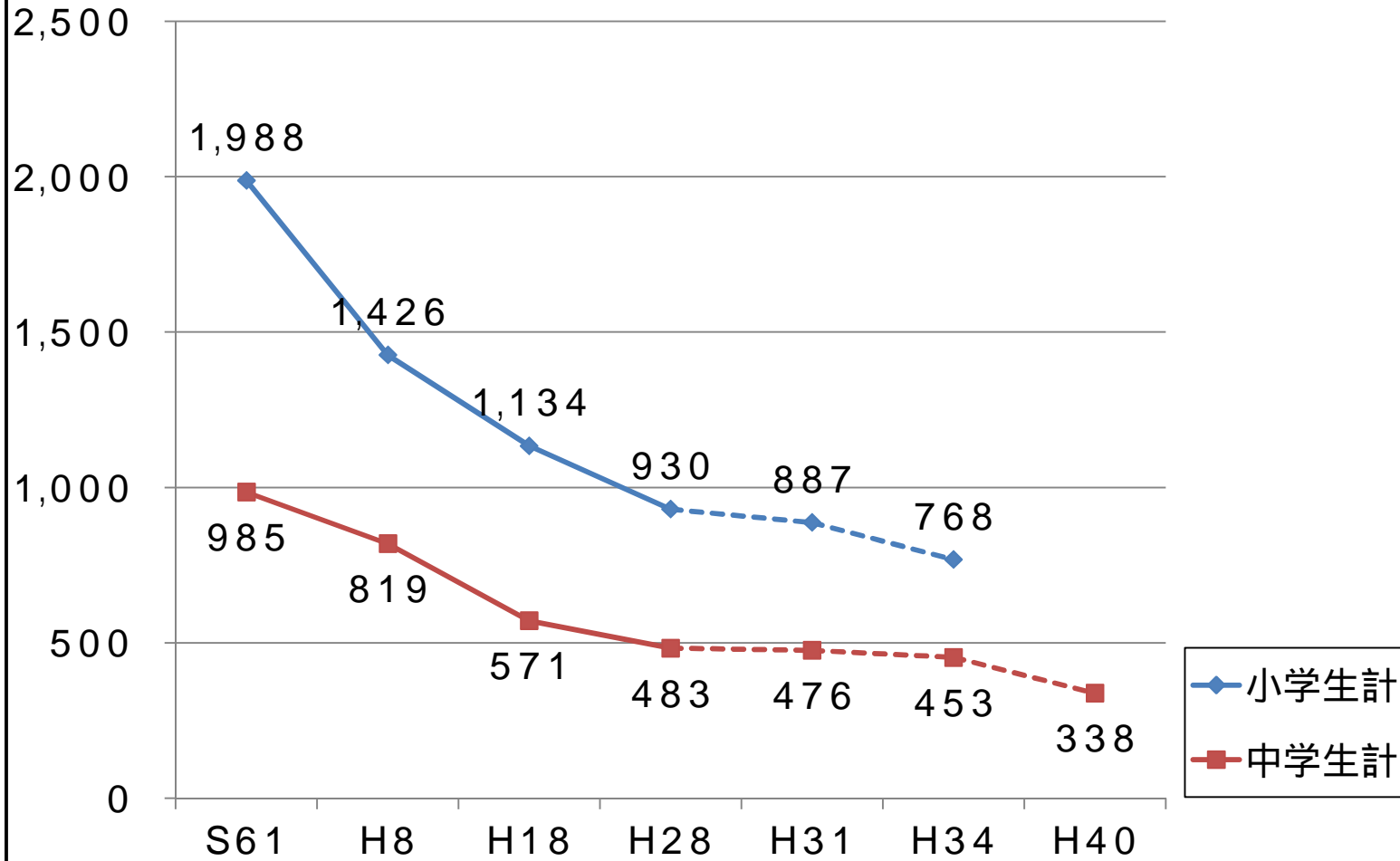


学校再編に関する座談会 説明資料

川南町・川南町教育委員会

(人)

小・中学児童生徒数の推移及び見込み



各学校の児童生徒数の推移及び見込み

	川南小	通山小	東 小	多賀小	山本小	唐中	国中
S 6 1 年	874	347	323	230	214	590	395
H 8 年	610	271	194	177	174	483	336
H 1 8 年	497	280	188	90	79	313	258
H 2 8 年	455	204	125	92	54	292	191
H 3 1 年	452	163	121	87	64	269	207
H 3 4 年	405	129	101	68	65	291	162
H 4 0 年						228	110
最 大 値	1,307	662	602	580	516	1,141	789
最大値 2	874	384	323	232	227	633	403

- 備考 (1) H 3 1 年以降の数値は、6 月時点の住民基本台帳により算定した数値です。
(2) 最大値 2 は、第 2 次ベビーブーム世代の最大値です。

平成28年度 学級編成状況

学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
川南小学校	3	3	2	3	2	2	15
	77	80	71	90	78	59	455
通山小学校	1	1	1	1	1	1	6
	23	33	33	37	37	41	204
東小学校	1	1	1	1	1	1	6
	16	19	26	22	26	16	125
多賀小学校	1	1	1	1	1	1	6
	11	19	17	15	10	20	92
山本小学校	1	1	1		1	1	5
	11	9	9	4	12	9	54
小学校合計	138	160	156	168	163	145	930
唐瀬原中学校	3	3	3				9
	89	99	104				292
国光原中学校	2	2	2				6
	68	65	58				191
中学校合計	157	164	162				483

備考 (1) 上段は級数、下段は児童生徒数です。

(2) 経年比較を行うため、特別支援教室については、各学年児童生徒数に計上しています。

平成34年度 小学校学級編成状況見込み

学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
川南小学校	3	2	2	2	2	2	13
	66	53	65	76	70	75	405
通山小学校	1	1	1	1	1	1	6
	15	18	22	21	27	26	129
東小学校	1	1	1	1	1	1	6
	10	16	15	12	22	26	101
多賀小学校	1	1	1	1	1	1	6
	6	11	11	13	16	11	68
山本小学校	1	1	1	1	1	1	6
	8	9	13	13	11	11	65
合計	105	107	126	135	146	149	768

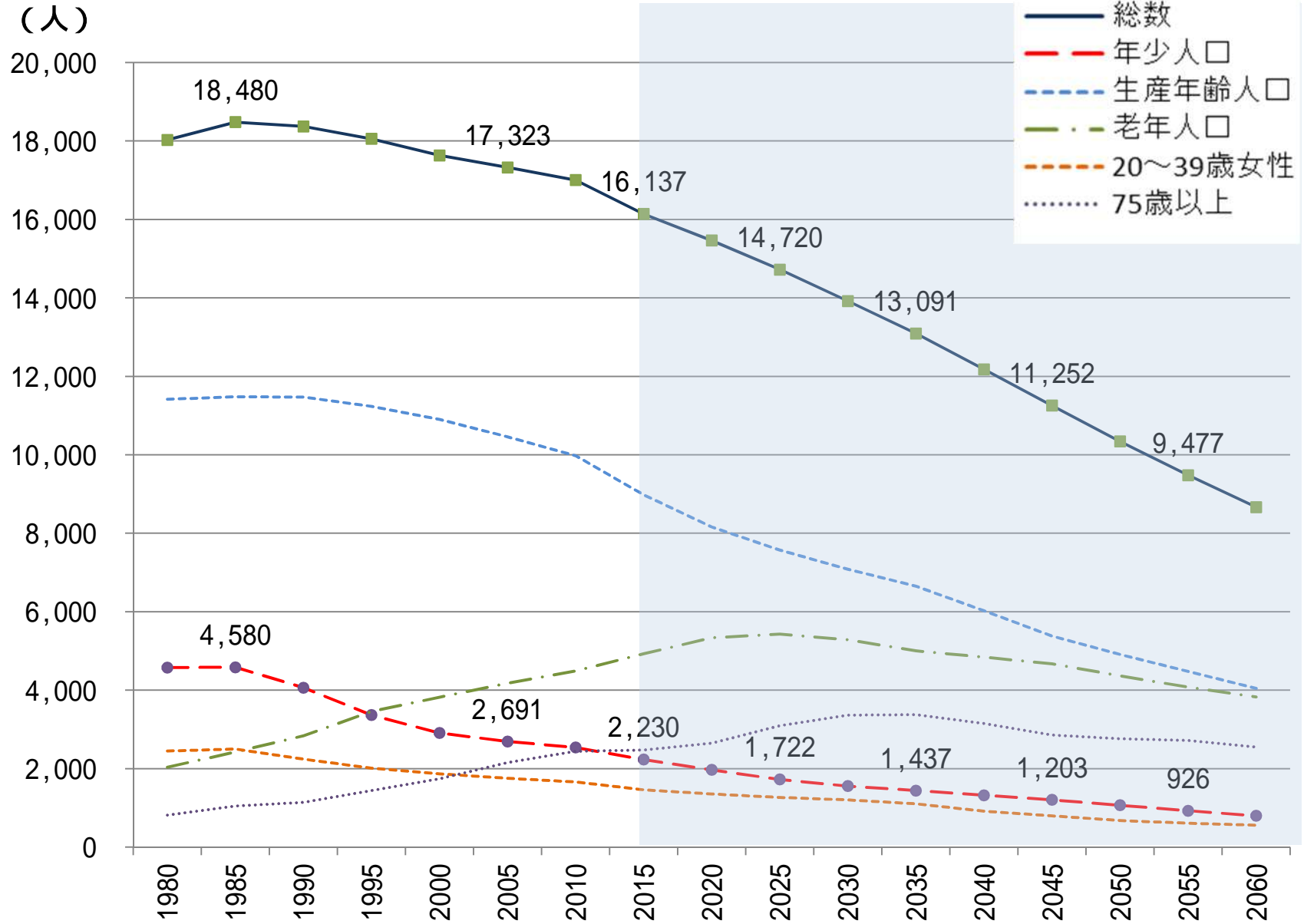
平成40年度 中学校学級編成状況見込み

学校名	1年生	2年生	3年生	合計
唐瀬原中学校	3	2	3	8
	74	68	86	228
国光原中学校	1	1	1	3
	31	39	40	110
合計	105	107	126	338

備考

- (1) 上段は級数、下段は児童生徒数です。
 (2) 私立中学校に進学することは、想定していません。

人口推計



公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～ 少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

平成27年1月 文部科学省(抜粋)

【学校規模の適正化に関する基本的な考え方】

学校規模の適正化を図る上では、第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目標としています。このため、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要になります。

【法令上の学校規模の標準】

小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、「特別の事情があるときは、この限りではない。」となっています。

小学校 (1学年 2～3学級)

中学校(1学年 4～6学級)

学校教育法施行規則 第41条

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～ 少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

平成27年1月 文部科学省(抜粋)

【学級が少ないことによる学校運営上の課題】

- クラス替えができない。
- クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。
- 男女比の偏りが生じやすい。
- 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られる。
- 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約を受ける。
- 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。 など

通山小学校4年 (男子11人 女子24人)

東小学校1年 (男子 3人 女子13人)

山本小学校 3年(男子 8人 女子 1人) 4年(男子3人 女子1人)

唐瀬原中学校 野球部9人 ソフトボール部(他校との合同チームで出場)
柔道、剣道(団体戦は出場できない)

国光原中学校 部活動が10種目(体育系8 文科系2)

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～ 少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

平成27年1月 文部科学省(抜粋)

【教職員が少なくなることによる学校運営上の課題】

(学校小規模化に伴い、配置される教職員数が少なくなるために生じる課題)

- 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。
- 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校運営が不安定になったりする可能性がある。
- ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- 教職員一人当たりの校務負担や行事に係る負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい。
- 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。 など

免許教科外指導の状況

唐瀬原中学校 3人

国光原中学校 7人

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～ 少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

平成27年1月 文部科学省(抜粋)

【小規模校のメリット】

- 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい。
- 意見や感想を発表できる機会が多い。
- 様々な活動において一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。
- 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。
など